

## 展示作品を制作した美術家紹介

青木 聖吾 (あおき・せいご)

1964年生まれ。93年愛知県立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。94年同大学院美術研究科絵画専攻研修科修了。○△□を世界を構成する元素、エレメントとして絵画を描く。2012年、ポルトガルで開催された「いま、日本のアートをつむぐ-てわざ・こまやか」プロジェクトに参加。2013年、アーティスト・イン・レジデンスで再びポルトガルへ。高校で教える。今は独身。

稲垣 立男 (いながき・たつお)

1962年生まれ。90年多摩美術大学大学院美術研究科修了。新聞記者だった父に伴い国内を転々と移動した子供時代の影響かコミュニティとコミュニケーションをテーマとしたアートプロジェクトを世界各地で展開。未就学児の美術鑑賞教育に取り組み、千代田区内児童館や茨城県守谷市の施設でワークショップを定期的に行っている。2010年より法政大学国際文化学部教授。2012年9月～2013年8月、長期研究休暇でロンドン滞在。1児の父。

河田 政樹 (かわだ・まさき)

1973年生まれ。99年多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。第2回アート公募'98審査員賞、99年東京都現代美術館アニュアル展「Modest Radicalism」に選出され注目される。一貫して「美術とは何か」問い続けて、テキスト、写真、レディメイド、絵画、オブジェなど様々なものでインスタレーションを構成する。大学時代に知り合った女性と結婚し、3.11震災の直前に父になった。

早川 陽子 (はやかわ・ようこ)

1973年生まれ。多摩美術大学大学院美術研究科修了。1999年～2011年、個展にて現代美術の作品を発表。2007年～2010年、世田谷区内で幼児から中学生までを対象とした絵画・工作教室の講師を務める。妊娠中に始め、出産後も続けている胎内感覚ドローイングを個展『泉を探して』(ギャラリー澄光、東京、2011年)で発表。1児の母。

mhR (えむえいちあーる/ 村田早苗 むらた・さなえ)

20年前、2度目の卵巣腫瘍摘出手術前後に行ったフォトドキュメント(パフォーマンス)「見舞客」が初美術作品。2001年から<mhR>という符丁で美術家の創作・発表活動をサポートする。「ハンティング・ミュージアム!～サイを追跡せよ～」(別称:サイサイ・プロジェクト、埼玉県立近代美術館、2005年)に参加。たどれば美術館丸ごと作品として見られるというサイの足跡インスタレーションや作品案内ボード、すごろくなど企画・制作。

Akiko Yasuda (安田 亜希子/やすだ・あきこ)・・・展示についてブレーン参加

テキスタイルを学び、アフリカンアート・ギャラリー勤務を経て武蔵野美術大学通信教育課程修了。及部克人のもとでワークショップ論など学ぶ。メキシコ在住。2005年、埼玉県立近代美術館常設展企画として、サイと玉をモチーフに美術館丸ごとコレクションを楽しんでもらう「ハンティング・ミュージアム!～サイを追跡せよ～」(サイサイ・プロジェクト)に参加。階段の壁に堆積した埃による汚れを拭き取って白サイを浮き上がらせた「ホコリ高さ壁サイ、23年(と4ヶ月)を駆け抜ける」は7年たった現在も残されている(写真)。未婚。

開発好明が立ち上げた「39 (サンキュー) アート」に共鳴し、2008年からほぼ毎年“Muchas gracias de Mucha gente”(皆さん、ありがとうの意)と題したコミュニティ・アート活動を行っている。

